



— 目次 —

- 1 第31号発行に添えて ~ご挨拶~
 - 2 倉敷 支援活動 1
 - 3 倉敷 支援活動 2
 - 4 倉敷 支援活動 3
- 編集後記

vol. 31

熊本
地域リハビリテーション
広域支援センターNEWS

— 略称・地域リハニュース —

発行日：2018年11月15日

発行元：熊本地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院

お問い合わせ：熊本機能病院内

〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8-1

TEL：096-341-0511 FAX：096-341-0512 Email：kc-chiikireha@juryo.or.jp

担当：東利雄（理学療法課 課長補佐）

第31号発行に添えて ~ご挨拶~

秋も深まり上着を羽織ることが増えてまいりました。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今年度は全国各地で様々な自然災害が発生しました。6月には「大阪北部地震」、7月は西日本全域の「豪雨災害」、9月は「北海道胆振東部地震」と甚大な被害が続きました。

当院は「平成30年7月豪雨」で特に被害が大きかった、岡山県へ災害リハ支援として業務調整員2名、避難所支援4名を3期に分けて派遣しました。

今回はその活動の様子を紹介させていただきます。

高齢化が加速する中、全国規模で災害リハの体制づくりが進められているのは、有事への備えとして重要ですが、活動が必要な災害が頻繁に起こったのは残念な事です。

熊本県内においては、発災後2年6ヵ月たった今でも仮設住宅での生活を余儀なくされている方が多数おられます。その方たちには、現在は、その地区の地域リハ広域支援センターが支援を継続しています。

今後も災害支援のみならず、熊本市北区の皆様が住み慣れた地域で元気にお過ごしいただけるように、様々な活動を進めていきますので、何卒、皆様のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年11月 熊本機能病院センター長 三宮克彦

平成30年7月豪雨において避難所支援を行いました

はじめに

この度、当広域支援センターではJRAT(大規模災害リハビリテーション支援チーム)からの依頼で、5名のリハビリテーション専門職が被害の大きかった岡山県倉敷市での避難所支援を行う機会を得ましたので、そこで行った活動についてご報告いたします。



平成30年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録された台風7号及び梅雨前線などの影響による集中豪雨は皆様の記憶にも新しいと思います。

特に広島県や岡山県、愛媛県などでは河川の氾濫や洪水、土砂災害などで多くの尊い命が奪われ、11月現在でもご自宅で生活が出来ない方が避難所で生活を余儀なくされています。

JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)とは？

- 東日本大震災をきっかけに発足した団体で、リハビリテーションに関係するさまざまな職種が参加し連携を図っています。
- 大規模災害が発生した時には、お年寄りや小さなお子さん、障がい者の方々などが自立した生活を再建できるようリハビリテーション支援を行うことを目的としています。
- JRATにはリハビリテーション科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師やケアマネジャーなど、多くの医療福祉関連職が参加し、連携を図りながら被災された方々の支援を行います。平成28年熊本地震でも全国より多くの専門職が避難所などの支援を行いました。
- 生活不活発病※などの災害関連死を防ぐことを目的として活動をしています。

※生活不活発病(せいかつふかつぱつびょう)とは？

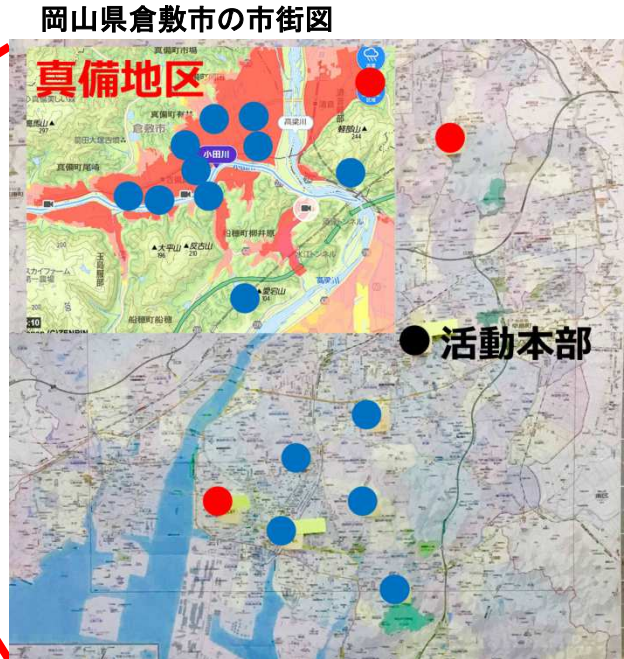
災害後、過度に安静にすることや、活動性が低下した結果、生活が不活発となり、心身の機能のほとんど全てが低下してしまう状態をいいます。

災害後に生活が不活発になるのは「動きたいのに動けない理由」がたくさんあるためです。「動けない・動かない」理由は主に次の3つに分かれます。

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ① することがない | 自宅での役割がない、地域での付き合いがなくなる、など。 |
| ② 遠慮して(させられて) | 「危ない」「迷惑になる」と外出を控える、など。 |
| ③ 環境の変化 | 家の中が散乱している、周囲の道が危なくて歩けない、など。 |

避難所支援の概要

平成30年7月25日から27日にかけて、**理学療法士3名、作業療法士2名の計5名**で岡山県倉敷市にある避難所で支援活動を行いました。



●は避難所、●は私たちが関わった避難所



避難所への移動途中では所々に災害の爪痕が残っていました

平成30年7月25日時点での避難状況

7月25日時点での避難者数は**2,306名**（11月8日現在75名）で、**31ヶ所**（現在4ヶ所）の避難所が設置されていました。倉敷市で災害に遭われた方が、倉敷市隣接の総社市にも避難されていました。

地区	開設場所	世帯	男	女	合計
倉敷	倉敷東小学校	22	25	21	46
	倉敷西小学校	11	9	8	17
	健康福祉プラザ	12	8	13	21
					84
水島	連島東小学校	27	34	33	67
	連島南小学校	15	18	16	34
	連島南中学校	48	61	59	120
	水島中学校	1	1	1	2
	福田中学校	12	18	16	34
	第二福田小学校	89	107	117	224
	第五福田小学校	34	51	50	101
				582	
玉島	上成小学校	5	6	2	8
	乙島小学校	15	11	15	26
	穂井田小学校	10	9	14	23
				57	

平成30年7月25日時点での避難所
※倉敷市ホームページより

船穂	船穂小学校	21	27	27	54
	岡田小学校		175	172	347
真備	菌小学校	95			245
	二万小学校	71	121	112	233
					825
総社	中央公民館	35	50	46	96
	山手公民館	39	58	69	127
	清音公民館	43	53	56	109
	清音福祉センター	17	21	23	44
	サンワーク	18	23	16	39
	勤労青少年ホーム	9	14	13	27
	総社市役所西庁舎	7	5	8	13
	西公民館	1	1	0	1
					456
その他	吉備路クリーンセンター	65	81	80	161
	熊野神社				15
	蓮花寺				8
	石田公会堂				4
	上有井公民館				10
	広江中央公民館				50
					248

被害が大きかった倉敷市真備地区では**825名**の方が避難生活を送っていました。

活動内容

○生活不活発病に対する**予防活動、体操指導**(特に高齢者、要介護認定を受けている方)

体を動かす機会が少ない避難者の方々に対し集団での体操を行ったり、避難所運営をされているボランティアの方々への体操方法を指導しました。また、被災前に介護保険サービスを受けていた避難者の体調確認なども行いました。



集団体操の一場面

○避難所の**生活環境を調査**し、必要に応じて**環境整備**をおこなう

必要に応じて段差を解消したり、布団から立ち上がることが困難な避難者の方へダンボール製のベッドを設置して立ち上がりやすくするなど、動きやすい環境づくりに努めました。また、杖や車いすなどの福祉用具の必要性や、避難者からの福祉用具に関する希望調査も行いました。



ダンボールベッドの設置風景



完成したダンボールベッド



避難所内の段差などを確認しました

活動中に感じたこと

- 環境整備**がなされている所と、そうでない避難所の差が大きいと感じました。
- 災害の後片付けにて、日中の避難所はかなり人数が少なく、おられるのはお子さんや高齢者が多い印象でした。
- 避難生活によるストレスにより、**心のケア**が必要と思われる避難者の方もおられました。

おわりに

災害はいつ、どこで発生するか、誰にも分かりません。備えを常に怠らず、今回の経験を生かし有事の際には何らかのお手伝いできればと思います。

(文責:熊本機能病院 理学療法士 坂田大介)

編集後記 「災害は忘れた頃にやってくる」と言いますが、「災害は次々間髪入れずに」やってきます。私も含め、次に備えて準備を怠らないよう心がけたいものです。

言語聴覚士 井上理恵子